「自ら考える」実践的防災訓練

山梨大学　地域防災・マネジメント研究センター　　准教授　　秦　康範

参考文献：秦康範，酒井厚，一瀬英史，石田浩一：児童生徒に対する実践的防災訓練の効果測定－緊急地震速報を活用した抜き打ち型訓練による検討－，地域安全学会論文集 No.26，2015.7

1．概略

東日本大震災を受け、文部科学省は今後の防災教育の考え方と施策の方向性として、自然災害等の危険に際して自らの命を守り抜くため「主体的に行動する態度」を育成すること、そのために「自らの危険を予測し、回避する能力を高める防災教育の推進」を打ち出した．本稿では，2012年～2014年の間に山梨県実践的防災教育推進事業のモデル学校の中で，著者が関わった12小中学校を対象に取り組んだ，「自ら考える」実践的防災訓練の取り組みについて報告する．

2．従来の防災訓練

- 授業時間中、事前告知
- 教頭先生の校内放送
- 机の下に隠れる→廊下に整列→上履きで校庭→点呼
- 校長先生の講話のポイント
  - 参集時間
  - 私語の注意

- 型どおりの訓練
- 児童・生徒自身が、自らの危険を予測し、回避する機会が無い！

※良い訓練とは？　・・・　失敗しない訓練×　　課題が見つかる訓練○

3．「自ら考える」実践的防災訓練

緊急地震速報を活用した抜き打ち型訓練を提案

- いろいろな場面設定
  - 掃除，休み時間，・・・
- 抜き打ちで実施
- 先生も参加
- 振り返り
  - 特定の行動を覚えるのは意味が無い
  - 気づき重視（正解があるような教え方をしない）

4．緊急地震速報を活用した抜き打ち型訓練の実施

写真1　清掃の時間での訓練の様子

写真2　休み時間の図書室：一次避難行動を開始したところ

写真3　休み時間の図書室：本棚の前に一次避難する子ども達

写真4　休み時間の2階廊下：1階のプレイルームから2階の教室に向かう子ども達

写真5　負傷者の設定：避難途中に階段で転倒し歩けない児童

写真6　負傷者の設定：意識不明の児童を担架で救護所に運ぶ教員

5．抽出された結論

従来の防災訓練の課題を整理し，型どおりの訓練のための訓練となっていることを指摘した．失敗しない，課題が見つからない訓練となっているため，訓練の講評も，「参集時間」と「私語の注意」が主となっていた．防災訓練の本来の目的である「身の安全を守る」という観点から，妥当性に欠けることを指摘した．

主体的な態度を育成するために，緊急地震速報を活用した抜き打ち型訓練を提案し，実践的防災教育推進事業の2012年度～2014年度にかけて12モデル小中学校で実践した．その結果，授業時間外での抜き打ち訓練を実施することにより，実践的訓練ならではの様々な課題が抽出された．主な課題は下記の3点である．

課題1　「地震時の身を守る行動」＝「机の下に隠れる」となっていた．多くの子ども達にとって，防災訓練は「自分の教室の自分の机の下に隠れること」になっていたということである．休み時間に廊下や隣の教室に居た場合でも，自分の教室の自分の机に向かう子ども達が多数見られた．

課題2　緊急地震速報を聞いても直ぐには適切な行動が取れない

課題3　状況に応じて的確な一次避難行動を取る応用力がほとんど養われていなかった